

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	統括部局：学長室	担当部局：学長室
大項目	1 キリスト教主義教育(研究科)《全学的な視点》	
中項目		
小項目	1.0.1 キリスト教主義教育を行うための組織・体制は適切か。	
要素		
小項目	1.0.2 キリスト教主義教育は、本学の使命・目的に照らして適切に行っているか。	
要素	(KG1)方針、実施内容	

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. ミッションステートメントを基本とする学院のキリスト教主義教育の理念の具体的プログラム化	→キリスト教主義教育を具体化するプログラム企画を整理し、年間を通じての開催計画を明示し、チャペルアワーなども含めて、ほぼ日常的にそれが実施される体制を確保する。	B	B	B	B	B
2. ミッションステートメントを軸とするキリスト教主義理解の学院構成員への浸透	→キリスト教主義理解を提供するプログラムへの参加者数を把握し、学院構成員の半数を超える出席者が得られるよう、奨励する。	C	B	B	B	B
3. キリスト教主義教育の成果として、Mastery for Serviceを体現しうる存在としての具体的な行動への奨励	→Mastery for Serviceを体現するモデルとなる存在などを積極的に紹介するとともに、その範に従った学院構成員の活動を積極的に顕彰し、学院としてその活動の全体を把握する体制を整える。	C	B	B	B	B

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 上ヶ原キャンパスにおいて、大学院チャペルを宗教センター宗教主事と各独立大学院ならびに宗教センターが中心となり、実施運営し、また梅田キャンパスにおいて、宗教総主事と大学宗教主事とキャンパス事務室が中心となってチャペル・プログラムを実施運営してきている。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 大学院チャペルならびに梅田キャンパスのチャペル共に、キリスト教主義を伝達する機会を確保する点で、大切なプログラムとなっている。ただ、出席者に関しては、少ない状態が続いており出席の勧奨方法に課題が残っている。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か チャペルプログラムの広報を再考し、看板等に工夫をする。また梅田キャンパスに関しては、その実施内容をフェース・ブックで発信することとしていく。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆
目標2	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 入学式において院長・学長・大学宗教主事を通して、理解と協力ならびにチャペル・プログラム等への出席勧奨を行ってきた。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か キリスト教以外の信仰を有している学生に対する配慮が出来るようになったが、チャペル・プログラム等への出席者の増加につながっていない。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 研究科に向けた独自のキリスト教発信プログラムを策定し、実施するようになる。その中で、スピリットブック『輝く自由』の配布も検討していく。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆
目標3	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 梅田キャンパスにおいてはクリスマスの特別プログラムを行い、スクール・モットーの発信と啓発に努めている。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か クリスマスプログラムに参加する学生も多くなっているが、それ以外のプログラム参加者が少ないことが問題である。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か スクール・モットーを伝達する新たなプログラムの策定とその実施ならびに広報の活用を行う。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆
備考			☆